

## ***General Information***

### **江角学びの交流センター活動報告**

## 令和6年度活動報告

---

### 江角学びの交流センター

#### はじめに

当センターは本学の附属機関として、地域社会に開かれた窓口としての機能を担い、各学科・専攻の学生・教職員による主体的かつ組織的な地域貢献活動を推進することを目的としている。その事業内容は、自治体・公共団体・各種産業界との連携事業、市民講座の開講、学生ボランティア活動の支援、社会人のためのリカレント教育の実施、地域志向型教育課程の編成等々多岐にわたる。個々の活動内容の詳細については、主に本学公式サイトで随時情報発信している。

本学では正規授業・教育課程の中に、数多くの地域志向型科目——地方創生を担う人材育成——を積極的に編成している。学生はもとより広く一般市民の郷土教育および地域貢献活動の一翼を担えるよう、今後も精進していく所存である。

また、毎年度末の「評議員会」〔当センター規約第7条〕では、自治体および産業界からの学外評議員を委嘱し、本学の地域貢献活動およびそれと連動した教育課程について、外部から客観的に評価していただき意見聴取をしている。本学の具体的な地域貢献活動を記した資料を「江角学びの交流センター事業概要」として、下記 URL にて毎年公開しているので、ご高覧いただければ幸いである。

<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/support/ezumi-center/>

令和6年度の評議員会は、令和7年3月17日、本学において外部評議員をお迎えし、対面で実施した。令和6年度の外部評議員は以下のとおりである（順不同）。

市来真美氏（鹿児島県教育庁かごしま県民大学中央センター所長  
（兼）生涯学習課長）

## 令和6年度活動報告

櫻井正実氏（鹿児島市市民局市民文化部市民協働課課長）

木下勝幸氏（鹿児島県錦江町役場観光交流課課長）

〔代理出席：宿利原伸二氏〕

小笹康浩氏（株式会社鹿児島銀行地域支援部部長）

### 1 地域人間科学研究所

新型コロナウイルス感染症の終焉にともない、本研究所の活動もコロナ禍以前に復活する兆しが見えた。今年度は一般を対象にした文化講演会を6年ぶりに再開し、100余名の参加者があった。その講演内容を本誌『想林』第16号、「特集：子どもの成長と絵本」として掲載した。

#### (1) 文化講演会

テーマ：子どもの成長と絵本

講師：斎藤惇夫氏

日時：令和6年10月26日（土）10：00～11：30

会場：本学大講義室（入場無料）

主催：鹿児島純心女子短期大学 江角学びの交流センター

後援：鹿児島県教育委員会 鹿児島市教育委員会 鹿児島県図書館協会 鹿児島県学校図書館協議会 南日本新聞社

参加者：一般100余名

講師プロフィール：1940年新潟県生まれ。児童文学作家・研究者。

福音館書店編集長を40年近く務めた後、作家活動に専念。現在は幼稚園の園長でもある。絵本についての講演活動を続けている。

主な著作：「グリックの冒険」「冒険者たち」「ガンバとカワウソの冒険」「哲夫の夏休み」（以上岩波書店）「河童のユウタの冒険」（福音館書店）

「おいで子どもたち」（日本聖公会）「わたしたちはなぜファンタジーに向かうのか」「子ども、本、祈り」（以上教文館）



文化講演会会場の様子



斎藤惇夫氏

## 2 生涯学習支援室

### (1)「純心市民講座」

令和6年度「純心市民講座」の各講座の実施状況は表1のとおりである。純心市民講座について言えば、計画どおりすべての講座を実施することができた。受講生の総数も増加した。

表1 令和6年度「純心市民講座」実施状況

	講座名	講師	定員	受講者数	会場
1	シルバー世代のための健康・教養講座 7/20 7/27 8/3 8/17 8/24 (土) 13時30分～15時30分 (全5回)	河野 一典 高岡 綾子 鎌田 典子 大迫 貴一 西田 一豊	各回30名 (全5回)	延べ 104名	カクイックス交流センター (かごしま県民交流センター)
2	夏のおもてなし料理 7/27 (土) 10時～13時	大山 典子	20名	23名	本学 調理実習室
3	親子でクッキング 8/7 (水) 10時～13時	榊 順子	20組	12組 (43名)	本学 調理実習室
4	親子で楽しく実験！ 8/9 (金) 13時～16時	新里 葉子	10組	10組 (24名)	本学 実験室
5	大島紬でお洒落なスマホショルダーを作ろう 6/29 (土) 13時～16時	宮地真奈美	10名	12名	本学 被服実習室
6	ショルダーバックを作ろう 8/21 (水) 13時～16時	濱崎 千鶴	12名	9名	本学 被服実習室

# 令和6年度活動報告

7	はじめての英会話 幼児コース (春季) 6/22 6/29 7/6 7/20 7/27 (土) (全5回) ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分	John Tremarco	①10名 ②12名	①08名 ②05名	本学 ブレイルーム
8	はじめての英会話 幼児コース (秋季) 10/5 10/12 10/19 11/2 11/9 (土) (全5回) ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分		①10名 ②12名	①09名 ②08名	
9	はじめての英会話 小学生コース (春季) 6/22 6/29 7/6 7/20 7/27 (土) (全5回) ①初級コース 9時～9時50分 ②中級コース 10時～10時50分	David O'Connor	①15名 ②15名	①17名 ②08名	本学 講義室 (2-206)
10	はじめての英会話 小学生コース (秋季) 10/5 10/19 11/2 (土) (全3回) ①初級コース 9時～9時50分 ②中級コース 10時～10時50分	Albright Beau  David O'Connor	①15名 ②15名	①07名 ②05名	



親子でクッキング



初めての英会話（小学生）

## (2) 社会人の学び直し講座（リカレント教育）

社会人の学び直しの講座（正規の授業を含む）の充実に引き続き努めている。

「科目等履修生」：いくつかの条件を満たし選考を経たうえで、本学の正規授業を受講することができる。

「履修証明プログラム」：令和6年度は5つのプログラムを公開した。本プログラムは1年間で本学の正規授業数科目を組み合わせ受講し、修了者には一定の職業的知識・技能を習得したことが認められ、学校教育法105条の規定に基づく履修証明書が交付される。

社会人の方々のニーズに応えられる開講科目を常に検討し、多くの方々の履修に結びつくよう努める所存である。令和6年度のプログラムは以下のとおりである。

- 1 「簿記会計・経営学プログラム」
- 2 「大島紬洋装製作プログラム」
- 3 「包括的子育て支援プログラム」
- 4 「栄養士のための学び直し講座」
- 5 「外国人のための日本語・日本文化プログラム」

科目名等の詳細については、下記 URL にて毎年更新しているので、ご高覧いただければ幸いである。

<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/region/extensho-in-course/>

生涯学習事業は広く県民の皆さまに、教養科目・郷土教育から専門的技術を習得するいわゆるリスキリングの学習まで提供するものである。本学の教育・研究資源を社会に還元し、地域社会の活性化の一助となれば幸いである。皆さまのご参画を心からお待ち申し上げます。

(文責 河野一典)

### 3 こどもの未来支援室

令和6年度の「純心こども講座」は、「リズムあそび」と「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」の2講座を企画・実施した。表2は、実施状況を示したものである。5月・6月に各1回講座別での実施に加えて、7月と12月に「リズムあそび」と「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」合同開催の講座を実施した。

# 令和6年度活動報告

表2 令和6年度「純心こども講座」実施状況

講座名	回	期日	担当講師	定員	受講者数	会場
リズムあそび	1	5/11	萩原 香織	30組	26名	本学 体育館
	2	6/8			39名	
いろとあそぼう・ かたちとあそぼう	1	5/11	榎本 容好 (監修)	20組	11名	本学 プレイルーム
	2	6/8			20名	
リズムあそび・ いろかたち合同講座	3	7/13	萩原 香織	40組	32名	本学体育館
	4	12/14			32名	

5月と6月に実施した「リズムあそび」には、本学の連携協定先である幼稚園や近隣の園にお声掛けし、園児を招待した。表の参加者数には、一般の申込者と招待者を合計して記載している。



「リズムあそび」(左)「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」(右)の様子

「リズムあそび」では、講座のプログラムの前半にコーナー遊びを取り入れ、後半に全体でのリズム体操を行う方法で実施した。ここ数年この方法で実施してきているので、講座の流れとして定着した。プログラムの前半にコーナー遊びの時間を設けることで、子どもにとっては体育館や学生スタッフに慣れる時間として、保護者にとっては開始時刻に間に合わなくても、気兼ねなく参加できるプログラムとして機能している。一方で、講座ごとにテーマを設けて活動を計画しているものの、コーナー遊びの種類が固定化してきていること、前半と後半の繋がりが薄れてきていることも感じている。

「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」では、親子の関わりのきっかけとなる講座づくりに努めた。今年度は、形や立体に親しむ活動として



新聞紙を用いた活動と、色に親しむ活動としてスタンピングに取り組んだ。

子どもと学生スタッフを中心に活動が展開されるが、形なら形だけに焦点化した活動を、学生スタッフ自身が十分に経験しているとは言い難く、講座ごとのテーマが十分に生かされた講座展開とするには、課題が残った。

今年度は新しい試みとして、12月の講座に加えて、7月にも「リズムあそび」「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」の合同講座を開催した。これは、昨年度の純心こども講座において実施した受講者アンケートにおいて、両方の講座を経験させたいというご意見を多数いただいたのを受け、実施したものである。

また7月の講座では、こどもバンドによる演奏の機会も設けた。こどもバンドは、本学生活学科こども学専攻の1年生、2年生によって構成されているが、7月の純心こども講座での演奏は、1年生のみで編成した。12月の講座は、例年通りクリスマス会とし、会場のツリーを飾りつけたり、季節に合わせたリズムダンスを楽しんだりする機会とした。



7月に開催した合同講座の様子



12月に開催したクリスマス会の様子



今年度は、新たな取り組みも加えた「純心こども講座」を実施することができた。子育てを取り巻く環境は日々刻々と変化しており、毎年同じことの繰り返しではなく、参加者である子どもたちが楽しめるものであるか、保護者の方たちのニーズに合っているかという視点から企画する姿勢を持ち続けたい。

課題としては、参加者の参加率と流動性が上げられる。昨年度より、参加者の参加しやすさの観点から、参加費の徴収方法を1回ごとに徴収する方法にしたが、申し込みはいただくものの、欠席されるケースは今年度も複数件あった。これは、過去に同様の方法をとったときと同じである。対象者が就学前の子どもとその親であり、急な体調不良などによるキャンセルへの対応を考えると、参加費は1回ごとに徴収する方がよいと考えている。

また、過去の「純心こども講座」は、4回連続で申し込みいただく方法をとっており、その結果、子どもと学生や、保護者とセンター所員の関係性が築かれていくという実感があった。現在はリピーターの方が多いとはいえ、実際には1回のみ参加が可能となる枠組みでの運営となっている。今後、本センターがどのような姿勢で講座を継続していくのか、検討の時期にあるといえる。

最後に、本学こども学専攻開設以来、「純心こども講座」は本学こども学専攻の学生にとって、貴重な実習の場となってきた。保育、幼児教育を学ぶ学生とはいえ、入学して間もない1年生がスタッフ（指導補助員）として参加している。学生の学びの場が確保できるのは、「おねえさんせんせい」として温かく見守ってくださる地域の皆様のご理解とご協力の賜物である。心より感謝申し上げたい。

（文責 森木朋佳）

